2016 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	現代アジア研究所
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	研究所の運営体制の適切性
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	運営委員会により年間事業計画を立案し、それを学部教授会に提案、承認を得ている。2013 年度と 2015 年度に、大学院アジア地域研究科との共催により国際シンポジウムを実施した〈追加資料〉。
7-6	責任主体や権限については明確であるが、検証プロセスは機能していない。2006 年以来の学部附置研究所の改革・再編に対応して活動領域を縮小し、予算も 2014 年度は海外からの招聘研究員 1 名分の 37 万円となっている。現在のあり方は本来的なあり方ではない。

【効果が上がっている事項】

7-4	
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	附置研究所の実績を検証し、将来像を確定する必要がある。
7-6	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B7-27 大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）
http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html

〔追加資料〕
国際関係学部ホームページ　http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_8332.html
国際関係学部ホームページ　http://www.daito.ac.jp/education/international_relations/news/details_11021.html

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	7-4　附置研究所の実績を検証し、将来構想を確定する。	教授会において、研究所の将来構想が承認されている。	→			C		
14 年度目標	7-4　附置研究所の実績を検証し、将来構想を確定する。	運営委員において、将来構想について審議されている。	→	C				
15 年度目標	7-4　附置研究所の実績を検証し、将来構想を確定する。	運営委員において、将来構想について審議されている。			C			
16 年度目標	7-4　附置研究所の実績を検証し、将来構想を確定する。	運営委員において、将来構想について審議されている。				C		